

## 会社の概況 (2021年9月30日現在)

商号	株式会社朝日工業社 ASAHI KOGYOSHA CO.,LTD.
創業	1925年4月3日
設立	1940年8月8日
資本金	3,857,100千円
代表者	代表取締役社長 高須康有
従業員数	1,006名(連結)、959名(単体)
事業内容	■設備工事業 ■機器製造販売事業
事業所	本社および本店(東京都港区) 大阪支社(大阪市淀川区) 支店8ヶ所、営業所28ヶ所 機器事業部(千葉県船橋市) 技術研究所(千葉県習志野市)
建設業許可	国土交通大臣許可(特-1)第2822号 管工事業、電気工事業、 機械器具設置工事業、建築工事業 国土交通大臣許可(般-1)第2822号 消防施設工事業

## 連結子会社 (2021年9月30日現在)

国内	北海道アサヒ冷熱工事株式会社 旭栄興産株式会社
海外	亞太朝日股份有限公司 ASAHI ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.

## 株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行可能株式総数	27,200千株
発行済株式の総数	6,800千株
株主数	2,313名
大株主	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
朝日工業社共栄会	603	9.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	539	8.41
朝日工業社西日本共栄会	493	7.69
朝日工業社従業員持株会	325	5.07
株式会社みずほ銀行	317	4.94
農林中央金庫	288	4.48
日本生命保険相互会社	250	3.91
高須康有	203	3.17
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	140	2.19
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	90	1.41

## 株式の所有者別分布状況

所有者	株主数	保有株式数	保有比率
個人・その他	2,105名	3,865千株	56.84%
金融機関	22名	1,749千株	25.73%
その他法人	111名	757千株	11.13%
外国法人等	56名	402千株	5.91%
金融商品取引業者	19名	27千株	0.39%
計	2,313名	6,800千株	100.00%

## 株主メモ

- 事業年度  
4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会  
毎年6月
- 基準日  
定時株主総会 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
その他必要がある場合は予め公告いたします。
- 株主名簿管理人・特別口座管理機関  
東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
みずほ信託銀行株式会社
- 郵便物送付先  
〒168-8507  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
- 電話お問い合わせ先  
0120-288-324 (フリーダイヤル)  
※土・日・祝日を除く9:00～17:00
- 特別口座お取扱店  
みずほ信託銀行株式会社  
本店および全国各支店  
みずほ証券株式会社  
本店および全国各支店
- 単元株式数  
100株
- 上場金融商品取引所  
東京証券取引所(第一部)  
証券コード1975
- 公告方法  
電子公告により行います。  
<https://www.asahikogyosha.co.jp>  
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

※証券会社に口座をお持ちの場合、未払配当金の支払および支払明細発行以外のお手続は、お取引の証券会社にお申し出ください。  
※特別口座では単元未満株式の買取および買増以外の株式売買はできません。



# 第93期 中間報告書

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日

## 株式会社朝日工業社



### 当第2四半期のポイント

受注高 **33,537** 百万円 (前年比**2.0%**減)

売上高 **28,408** 百万円 (前年比**7.1%**減)

営業利益 **43** 百万円 (前年比**88.9%**減)

親会社株主に帰属する  
四半期純利益 **124** 百万円 (前年比**69.9%**減)



## Top Message

トップメッセージ

# 「利益重視の徹底」と「経営基盤の強化」に取り組み、より一層の企業価値向上を目指します。

代表取締役社長 **高須 康有**

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第93期中間報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

### 期中の市場環境について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況が続く中で、設備投資や生産においては持ち直しの動きが見られませんでした。また、新型コロナウイルスワクチン接種の促進等により、景気の持ち直しも期待されておりますが、個人消費は低い水準で推移いたしました。

当社グループの事業環境は、設備工事業ににつきましては、前連結会計年度に引き続き、政府建設投資は底堅く推移しておりますが、民間の投資につきましては、企業収益、設備投資は持ち直しの動きがあるものの、受注競争の激化や工期の延伸、資機材の高騰などが懸念される厳しい状況が続きました。精密環境制御機器の製造販売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響も軽減され、受注は増加しましたが、FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置向け製品、半導体製造装置向け製品ともに、出荷時期等により売上高は減少いたしました。

### 通期の見通しについて

第3四半期以降の見通しは、日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありますが、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除され、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で、各種政策の効果もあり、持ち直しの動きが見られるものの、国内外の感染症の動向には注視する必要があります。

こうした事業環境の中で、設備工事業は、引き続き、受注競争の激化による、厳しい価格競争は続くものと思われま。通期の売上高は、第2四半期の受注実績を踏まえ、当初予想を下回る見込みですが、利益面は売上総利益率の改善等により、当初予想の確保に努めてまいります。また、機器製造販売事業は、FPD製造装置向け製品、半導体製造装置向け製品ともに出荷時期等の影響が懸念されますが、当初予想の確保に努めてまいります。

### 株主の皆様へのメッセージ

このような中、設備工事業は、引き続き、採算性と施工体制を重視し、将来に向けた戦略的受注活動の展開を図るとともに、施工現場における業務の効率化、生産性の向上と負荷軽減に取り組みます。機器製造販売事業は、生産性をさらに向上させるとともに、FPD・半導体の周辺市場や応用分野での顧客の開拓を進めます。また、健康的で働きがいのある職場づくりのため、「働き方改革」を着実に推進してまいります。当連結会計年度は第17次中期経営計画（2020年4月～2023年3月）の2年度に当たり、現在、当社グループが直面している課題の解決と、先に策定した長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」に沿って、将来に向けた基盤づくりに取り組み、持続的な成長と企業価値の向上をさらに推し進めるものであります。また、基本方針として（1）魅力ある会社・職場づくりの推進、（2）利益重視の徹底、（3）将来に向けた経営基盤の強化を定めております。さらに、当社グループは、「地球環境と資源を大切にしながら、空気・水・熱の科学に基づく高度な技術によって、最適空間を創造し、人類文化の発展に貢献する」という企業理念に基づく、SDGs（持続可能な開発目標）基本方針の重点課題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

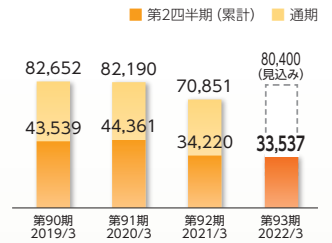
株主の皆様には今後とも特段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 財務ハイライト

単位:百万円

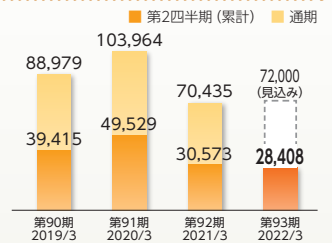
#### 受注高

33,537 百万円



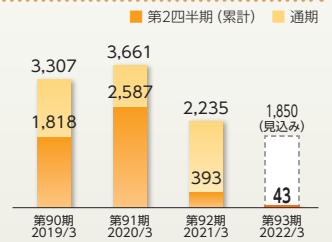
#### 売上高

28,408 百万円



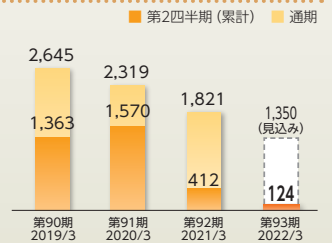
#### 営業利益

43 百万円



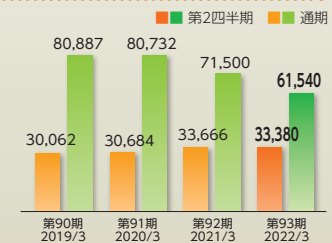
#### 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

124 百万円



#### 純資産

33,380 百万円



#### 総資産

61,540 百万円

## 連結財務諸表(要約)

### 貸借対照表

単位:百万円

	当第2四半期末 2021年9月30日現在	前期末 2021年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	40,749	50,262
固定資産	20,790	21,237
有形固定資産	5,548	5,658
無形固定資産	1,138	1,235
投資その他の資産	14,103	14,344
資産合計	61,540	71,500
(負債の部)		
流動負債	25,304	34,687
固定負債	2,855	3,146
負債合計	28,159	37,833
(純資産の部)		
株主資本	28,631	28,783
資本金	3,857	3,857
資本剰余金	3,760	3,742
利益剰余金	21,704	21,900
自己株式	△ 691	△ 716
その他の包括利益累計額	4,749	4,882
その他有価証券評価差額金	5,056	5,254
為替換算調整勘定	150	108
退職給付に係る調整累計額	△ 457	△ 479
純資産合計	33,380	33,666
負債純資産合計	61,540	71,500

### 損益計算書

単位:百万円

	当第2四半期累計 2021年4月 1日から 2021年9月30日まで	前年同期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで
売上高	28,408	30,573
売上原価	25,326	27,176
売上総利益	3,082	3,396
販売費及び一般管理費	3,038	3,002
営業利益	43	393
営業外収益	209	158
営業外費用	25	35
経常利益	227	517
特別利益	—	145
特別損失	0	18
税金等調整前四半期純利益	226	644
法人税、住民税及び事業税	55	47
法人税等調整額	46	183
四半期純利益	124	412
親会社株主に帰属する四半期純利益	124	412

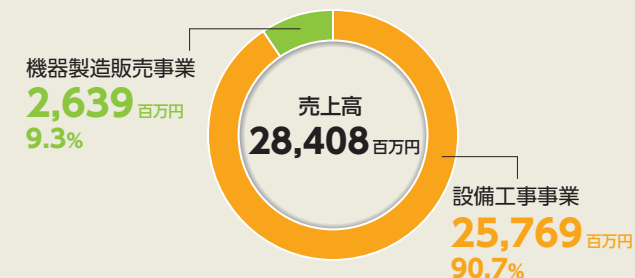
### キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	当第2四半期累計 2021年4月 1日から 2021年9月30日まで	前年同期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 3,237	△ 8,605
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 167	△ 127
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,418	△ 1,574
現金及び現金同等物に係る 換算差額	20	4
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 4,802	△ 10,302
現金及び現金同等物の 期首残高	15,919	18,997
現金及び現金同等物の 四半期末残高	11,116	8,695

## ■ セグメント情報

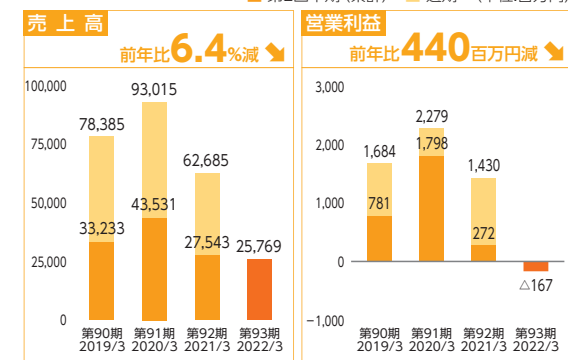
### 売上高構成比



### ■ 設備工事業

事業内容：空気調和、給排水衛生、クリーンルーム等の環境整備に関する諸設備の設計、施工および監理

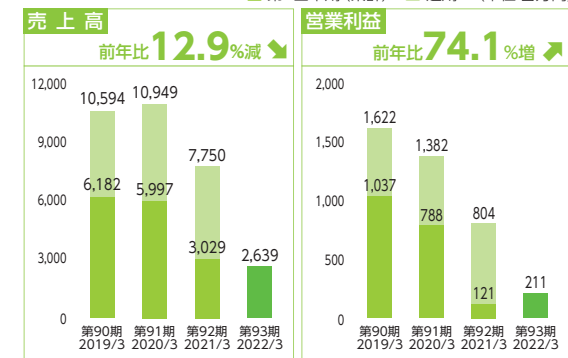
■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



### ■ 機器製造販売事業

事業内容：半導体および液晶製造装置向け精密環境制御機器の製造販売

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)

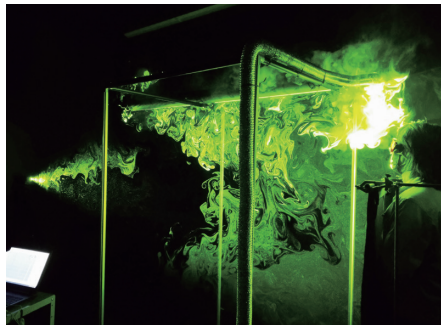


財務の詳細内容は、当社ウェブサイトからご確認いただけます。

朝日工業社

検索

## 微粒子・気流可視化計測技術を備えた 最新実験室「みえるカラボ」の構築



2020年から新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大しており、その感染経路は飛沫・接触・空気感染であると報告されています。特に感染者から生じる飛沫によるものが主な感染源として挙げられ、その飛沫の動きを理解することが有効な感染防止対策につながります。

この度、当社技術研究所において、飛沫のような微粒子や換気時の空気の流れといった気流を可視化・計測する技術を備えた最新実験室「みえるカラボ」を構築しましたので、その概要をご紹介します。

### ▶「みえるカラボ」の概要

「みえるカラボ」は、高強度レーザーライトシートや高感度・高速度カメラを備えた実験室です。実験室内では気流パターンや温湿度、清浄度の制御が可能で、それらの制御によりさまざまな環境条件を再現することができます。その環境下で風の流れや微粒子の動き、さらには咳やくしゃみ等による飛沫が拡散する状況を見える化することができます。これにより、通常肉眼では確認できなかったために経験と知識に頼っていた分析、調整が容易に行えるようになります。

### ▶可視化計測の原理

可視化計測の原理としては、「光の散乱」と呼ばれるカーテンの隙間から差し込む太陽光によって日頃肉眼では見えない空気中のほこりがキラキラ見えるようになる現象を利用します。実際の測定では、カーテンの隙間から差し込む太陽光を「レーザーライトシート」、肉眼を「高感度・高速度カメラ」に置き換えて測定を行います。



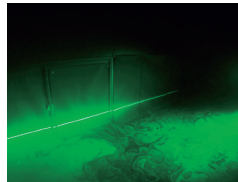
「みえるカラボ」外観



「みえるカラボ」内観

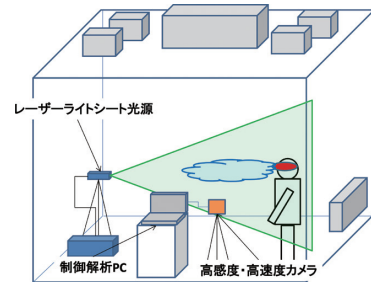


実験風景



換気状態可視化測定時の様子

咳発生時の飛沫・気流可視化の実験イメージ



「みえるカラボ」の主な仕様

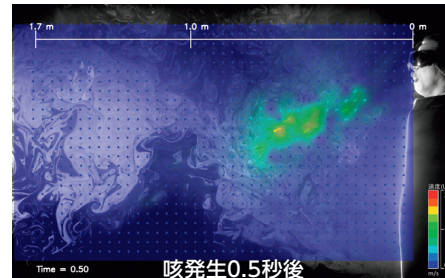
室寸法	幅6.0m、奥行3.6m、天井高3.6m
扉寸法	幅1.2m、高さ2.0m
換気回数	~30回/h(送風運転時最大50回/h)
空調	パッケージエアコン+加湿器
フィルタ	中性能+HEPA
清浄度	Class6 (ISO 14644-1)
気流方向 パターン	天井制気口 → 天井制気口
	天井制気口 → 壁制気口
	天井制気口 → 床全面
	天井スクリーン → 壁制気口
	天井スクリーン → 床全面
	壁制気口 → 天井制気口
	床全面 → 天井制気口

### ▶微粒子・気流の「見える化」事例

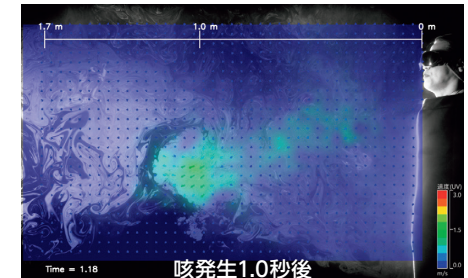
#### ① 新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対策技術の評価

新型コロナウイルス感染症では、人から発せられる飛沫の制御が感染予防対策の一つとなります。そこで、人から発せられる飛沫を含む空気塊の移動速度の「見える化」を行いました。

咳によって生じる空気塊の移動速度の計測



咳発生0.5秒後

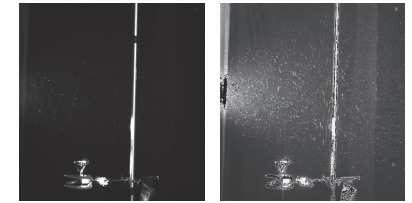


咳発生1.0秒後

#### ② クリーンルーム (CR) 内微粒子の計測

半導体の製造現場では、空気中の微粒子の付着により製品の歩留まりが大きく変化するため、CRの微粒子濃度、すなわち清浄度を厳密に制御することが必要不可欠です。微粒子発生個所の特定に際しては、微粒子可視化技術が非常に有効であり、また気流による清浄度の制御を行う場合、気流可視化技術を利用することで効果を評価することができます。

CRでの気中微粒子の高感度カメラによる計測および  
差分強調処理による微粒子の可視化



計測画像

可視化処理後画像

(白く写っているのが微粒子)

### ▶今後の展望

現在「みえるカラボ」では、お客さまがお持ちの課題に対して、可視化計測技術によるソリューションの提供準備を進めており、可視化装置類をお客さまのもとへ持ち込んでの現地計測、またはお客さまの計測対象を「みえるカラボ」にて計測する持ち込み計測への対応を検討しています。また、今後は可視化計測技術とAI(人工知能)を組み合わせることで、より高性能な可視化計測手法の開発に取り組むなど、社会課題の解決につながる技術の研究に努めていきます。

### Voice

#### 「みえるカラボ」を構築して

建設業界における働き方改革や高度化する技術に対応するには、経験や知識などの暗黙知の継承が重要と考えます。今回ご紹介いたしました「みえるカラボ」の可視化技術は、暗黙知の一つである空気の流れ等を可視化・数値化することが可能になります。

今後、「みえるカラボ」でさまざまな環境における空気の流れ、微粒子の動きの可視化を行うことで、誰もが理解でき、客観的な知識としての形式知化を進め、効率的な技術継承だけでなく、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策等に貢献できるように尽力していきたいと思います。



本社 技術本部 技術研究所  
福山 太郎